山口大学医学部附属病院

小児科

【診療科(部)の特色】

小児科医はこどもの総合診療医です。小児科医は、家族を守り社会をみつめる幅広い視野を持ち、最先端の知識と技術に基づいた診療を行います。成長と発達を見守る喜びを感じ、その責任を担う分野です。山口大学小児科では、「すべてのこどものために」をスローガンにしています。若手医師は「よく聞く」「よく観る」「よく調べて考える」を心がけた診療を行うよう指導を受けます。また上級医はリサーチマインドを育む診療・研究・教育を行うよう心がけています。山口大学医学部附属病院は、小児科病棟 37 床と総合周産期母子医療センター（NICU・GCU）21 床の計 床を備え、年間 2,000 名以上の入院患者のほか、多くの時間外患者にも対応しています。アレルギー・免疫・膠原病、遺伝、感染症、血液・腫瘍、循環器、消化器、神経、新生児、腎・泌尿器、内分泌・代謝など幅広く専門性の高い疾患をかかえたこどもたちが県内外から紹介されます。また、宇部・山陽小野田周辺地域の二次・三次病院としての役割も担っています。基礎疾患を有する患児を長期に診療する県内最大の小児病院として、総合的かつ専門的な医学教育と小児医療を実践しています。

【研修目標および研修スケジュール】

将来小児科以外の診療科を専攻する医師でも当直等でこどもの診療に携わる可能性があるため、研修医は熱意と興味を持って小児科研修に取り組んでいます。「参加型」「体験型」を意識して、各研修医の熱意と興味に応じた実践的な指導を心掛けています。自分が親になったつもりでこどもたちを育む気持ちで、少しでも長く小児科研修を経験してください。

研修週間スケジュール 例

	午 前	午 後	セミナー等
月	学生指導・外来業務・病棟業務・チーム回診	病棟業務	データカンファレンス
火	学生指導・外来業務・病棟業務・チーム回診	症例検討会・教授回診	医局会・抄読会
水	学生指導・外来業務・病棟業務・チーム回診	病棟業務	
木	学生指導・外来業務・病棟業務・チーム回診	病棟業務	研究会等
金	学生指導・外来業務・病棟業務・チーム回診	回 診	診療グループ別カンファレンス

研修の初期目標は小児一次救急の習得です。小児救急医療の資格である PALS プロバイダーにおいて、重症児の評価や治療アプローチを体系的に行うことの重要性が強調されています。指導医のもと採血・血管確保・腰椎穿刺などの処置、エコー・透視などの検査の習得と児の年齢に応じた特徴の理解と病態による重症度を肌で感じてもらいます。同時に、小児の病歴・理学所見の取り方・鑑別疾患・適切な検査の選択などを指導していきます。希望者には、当直業務や休日・夜間救急診療所出務などを通じて小児救急に接してもらいます。さらに、研修者の能力に応じて、患児の基礎疾患から専門分野の研修へと発展させていきます。

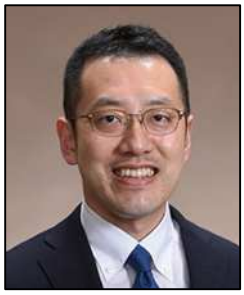
【キャリアパス】

専攻医プログラムが終了した時点で、小児科専門医取得が一つの目標です。ライフイベントに合わせて柔軟に検討されますが基本的なプランは右図の通りです。それぞれのステップで指導医がしっかりとサポートを行います。その後はサブスペシャリティ専門医の取得や、大学院に入学して博士号を取得するなど様々なキャリアプランが用意されています。



【指導医からのコメント】

「こどもたちの家族になったつもりで、優しくたくましい小児科医になりましょう」 岡田　清吾（2008 年卒）



私は山口大学医学部を卒業後、県内で 2 年間初期研修を行い、小児科医になりました。大学で医学博士および小児科専門医を取得した後、3 年間の国内留学を経て、現在の専門分野である小児循環器専門医を取得しました。

山口大学小児科では二次・三次医療の幅広い疾患を対象に診療を行いながら、教育および研究も精力的に行っています。最近は多数の診療ガイドラインが作成されており、基本的にはこれらのエビデンスに基づいた治療を実践しています。しかし、実臨床ではエビデンスの範囲内で解決しない疾患や病態に遭遇することがままあります。「医は仁術なり」とよく言われるように、医療とは単に疾患を治すだけでは成立せず、患者さんやご家族の心理面および社会的背景にも配慮したケアが非常に重要です。家族の一員になったつもりで、こどもたちやご家族のために何ができるかを私たち指導医と一緒に考えましょう。臨床医は科学的かつ柔軟な問題解決能力が求められますが、誰でも最初からできるわけではありません。大学病院では皆さん若手医師が問題解決能力をはぐくむ機会と環境が用意されています。ぜひ山口大学小児科の研修を通じて、優しくたくましい医師に成長してください。

【先輩(若手医師)からのコメント】

「こどもの成長に寄り添える喜び」 有吉　俊樹（2020 年卒）



私は山口大学を卒業後、済生会山口総合病院で 2 年間の初期臨床研修を行いました。様々な診療科を経験し、医師として必要な基本的な知識や技術を学びました。指導医の先生方や多職種の皆さんに支えていただきながら、患者さん一人ひとりに向き合うことの大切さを実感した 2 年間でした。

小児科を選んだのは、こどもたちの回復力や成長する姿に大きな魅力を感じたからです。入院時には元気がなかったこどもが、治療によって徐々に笑顔を取り戻し、元気に退院していく姿を見ることは、小児科医として何ものにも代えがたい喜びです。

現在は山口大学医学部附属病院で、免疫・アレルギー疾患を中心に診療しています。診断や治療に難渋することもありますが、病態を一つひとつ考え、適切な診断と治療につなげられたときには、この分野ならではの大きなやりがいを感じます。小児科は、幅広い知識と細やかな対応が求められる診療科です。大変なこともありますが、こどもの成長を長く見守り、その節目に関わることのできる魅力があります。こどもたちの笑顔に元気をもらいながら、私自身も日々成長させてもらっています。

皆さんも私たちと一緒に、こどもたちの未来を支える小児科医療に携わってみませんか。

【お問い合わせ先】

山口大学医学部附属病院　小児科　東　良紘
TEL：0836-22-2258　　E-mail：hiroazum@yamaguchi-u.ac.jp

小児科HP